

	<p>採って凝固性蛋白質含有量を測定し、分注量を決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他方、大部の濾過液は直ちに、<b>無菌的に紫外線照射を行う。</b></li> </ul> <p>分注・凍結・乾燥</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 決定された分注量で、紫外線照射されたフィブリノーゲン溶液を滅菌ガラス瓶に小分けし、円筒状に凍結し、凍結後速かに真空乾燥し、真空密栓する。(後略)</li> </ul>
用法及び用量	注射用蒸留水に溶解し静脈内に注入する。通常 1 回 3 グラムないし 8 グラムを用いるが、症状により受注者の血漿フィブリノーゲン量が正常となるまで反復する。
効能又は効果	低フィブリノーゲン血症の治療
添付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人血漿フィブリノーゲン基準案</li> <li>・ 米国 NIH 基準</li> </ul> <p><b>MINIMUM REQUIREMENTS: Dried Fibrinogen (Human)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (同上和訳) 乾燥人フィブリノーゲン基準. 訳</li> </ul> <p>その他、Fibrinogen 臨床例総括表、および臨床試験資料として以下 6 文献を提出。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 正常位胎盤早期剥離に伴う低繊維素原血症 (百瀬和夫ら)</li> <li>2) Fibrinogen の使用経験 (品川信良ら)</li> <li>3) Fibrinogen 使用経験 (岩谷宏ら)</li> <li>4) フィブリノーゲンの使用経験 (村上文夫)</li> <li>5) フィブリノーゲン-BBank の使用経験 (徳沢邦輔)</li> <li>6) 先天性無フィブリノーゲン血症の一例 (土屋与之ら)</li> </ol>